

家畜伝染病の防疫体制について

1 海外悪性伝染病の発生状況

国内では、26年ぶりの豚コレラが発生する中、海外では、アフリカ豚コレラや口蹄疫などの海外悪性伝染病が拡大している状況。

(1) 豚コレラ（岐阜県）

- ・ 9月に、国内では26年ぶりに発生。

① 9月 9日 小規模農場	610頭	④ 12月10日 いのしし農場	22頭
② 11月16日 岐阜市畜産センター公園	23頭	⑤ 12月15日 県立農業大学校	10頭
③ 12月 5日 県畜産研究所	491頭	⑥ 12月25日 大規模農場	7,547頭 (自衛隊派遣)

- ・ 岐阜県、愛知県では、野生いのししでも発生。

(2) アフリカ豚コレラ（中国等）

- ・ ロシアなど東ヨーロッパを中心に発生が拡大していたが、本年8月にアジアで初めて中国で発生し、全土に拡大。

〔12月25日現在、112カ所・約26万頭を殺処分〕

- ・ 10月以降ウイルス遺伝子陽性の肉製品（ソーセージ：新千歳空港、餃子：羽田空港、ソーセージ：成田空港）の持ち込み発覚。

(3) 口蹄疫（中国等）

- ・ 中国、韓国、モンゴルなど近隣諸国で継続的に発生。
- ・ 10月に中国で2事例（牛）が発生。

(4) 高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ

- ・ 中国、台湾など近隣諸国で継続的に発生。
- ・ 平成28年12月、十勝管内清水町で28万羽の発生、平成30年1月、香川県で9万羽の発生。
- ・ 今シーズン、千葉県及び愛知県で野鳥の低病原性鳥インフルエンザの感染を確認。

2 道内で発生した場合

迅速な防疫体制を図るため、これまでのマニュアルを見直し、新たに、北海道家畜伝染病防疫対策要綱を施行（平成30年12月27日付け）し、全庁的な協力のもと対応していく。